

海外派遣研究助成事業による研究の成果

研究者氏名	寺山 仁祥	印
所属機関	国立国際医療研究センター病院 外科	
<ul style="list-style-type: none"> ・研究に従事した外国の研究機関名 ・参加した国際学会・会議名 	米国消化器病週間 (DDW) 2018	
渡航期間	自 2018年6月1日 至 2018年6月7日	
<ul style="list-style-type: none"> ・研究内容 ・国際学会・会議内容 	American Gastroenterological Association Esophageal and Junctional Neoplasm	
研究成果 (要約 : 800 字)		
<p>私は、食道扁平上皮癌において見出した新規癌抑制遺伝子の機能に関する研究成果報告のため、貴会助成により2018年6月2日から5日まで米国消化器病週間 DDW2018 学会に参加させて頂きました。</p> <p>本学会は、消化器領域では世界最大規模の学会であり、最新の知見に関して多くの発表がなされていました。自身の研究テーマである癌関連遺伝子の機能解析については、従来の細胞株、遺伝子改変マウスに加え、オルガノイド培養を用いた研究が活発に行われていました。特に大腸上皮についてはオルガノイド培養を用いた幹細胞の研究が盛んで、正常な組織幹細胞、癌幹細胞に加えて、炎症性腸疾患などの病変部上皮からもオルガノイドが作製されていました。これらは病因・病態解明だけでなく、創薬スクリーニング、さらにはテーラーメイド医療の実現においても有用なツールであることが議論されました。この技術は大腸上皮以外にも展開されており、私の研究対象である食道でも報告されていたので、今後の研究への応用が期待できる知見が得られたと感じております。</p> <p>私の専門である外科領域についても興味深い講演を拝聴すること出来ました。肥満手術はその1つで、2日目の Microbiome and Host Metabolism のセッションを初めとして、肥満人口が多い海外の特性を活かし、大規模な臨床試験による研究が進んでおり、今後日本における方向性を占う多くの学びがありました。本学会で特にホットな領域と感じたのは細菌叢と疾患の関連に関する演題で、既に様々な疾患に対する細菌叢(糞便)移植がパイロットスタディーとして進行中であることを知りました。肥満手術と細菌叢の関係性も指摘されており、基礎研究と臨床の融合を強く感じる事が出来たのも、大きな経験です。</p> <p>自身の発表では、研究手法から実験結果の解釈に至るまで、数多くの質問を頂くことが出来ました。また、議論を交わす中で、自分になかった視点に気づくこともでき、これから研究を進めるうえで、貴重な財産になったと捉えています。助成により学会に参加させて頂けたことで、同じ領域で研究されている、海外の先生方と直接議論するという大変貴重な経験を積むことが出来ました。また最新の研究成果に触れる機会は、研究の考え方や理論を学ぶ上で大変勉強になりました。今後必ず活かすことのできる財産が得られたと感じております。誠にありがとうございました。</p>		